

上智大学連携講座 つくる I 「地球から月へ、月から地球へ」講義概要

2016/1/8 トヨタ自動車株式会社 加古純一

講義の技術的内容：



開発にあたり、存在意義：Mission、目指すべき姿：Vision、行動指針：Value を定義。

さらに、自動車開発で育んだ技術の月面への適用（地球から月へ）と、月面で鍛えた技術の地上還元（月から地球へ）を狙う。

例えば、再生型燃料電池は災害時の避難所を含めた街への適用で、循環型の生活やカーボンニュートラルに貢献可能な技術である。

<https://youtu.be/xOnkkUhoe44>

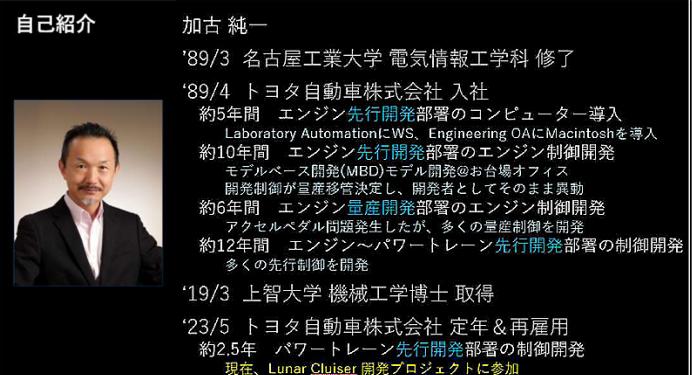
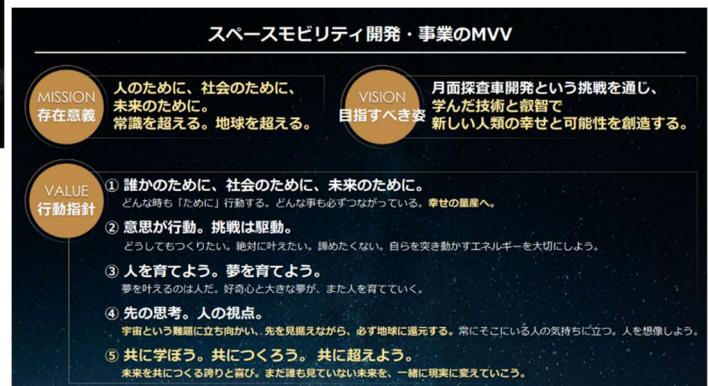


キャリヤ形成について：

入社以来、ほとんど先行開発部署に籍を置くことになったが、常に原理原則を突き詰めていた。さらに社外も含めた人とのつながりが、今の私の仕事やその広がりに直結。



NASA、JAXAと共にトヨタ自動車は2031年打上げ予定の月面広域探査用のモビリティ（愛称：ルナクルーザ）を「つくる」。



講義に対する質疑・コメント：

再生型燃料電池について、地上での活用可能性を含めた多くの質問・コメントをいただいた。ワクワクしたとのうれしいコメントもあり。